

原初枝の生涯

資料:原初枝嬢遺稿「しのぶ草」(星野水裏編、1913年刊)より

明治 27	1894	0歳	7月22日、佐賀県武雄町にて出生(父・警部在任中)
明治 31	1898	4歳	父の転任に伴い、佐賀市へ
明治 33	1900	6歳	7月3日、父の東京警察監獄学校入学に伴い上京。芝区葺手町に居住
明治 34	1901	7歳	4月に帰佐し、佐賀市勸興小学校に入学、級長に選ばれる。 8月、父の鹿島警察署長転任に伴い、鹿島小学校へ転校。級長となる
明治 36	1903	9歳	12月、父の伊万里署長転勤に伴い、伊万里の小学校へ転校。2カ月後に級長に
明治 37	1904	10歳	母の勧めで琴を始める
明治 39	1906	12歳	9月、父の韓国赴任に伴い、京城小学校に転校。2～3カ月後に級長に
明治 41	1908	14歳	京城女学校の2学年に入学、級長に
明治 42	1909	15歳	7月、梨本宮殿下の接待係に選ばれる。 11月21日の選挙で学芸会の談話出演(200人の生徒に講話)と展覧会の幹事に
明治 43	1910	16歳	3月、成績優等につき主席に。3月23日卒業生送別会で開会の辞を担当。 9月に脚気病に罹病し、9月19日退学。唐津に転地療養。心臓外脈炎を併発
明治 44	1911	17歳	ほぼ全治するも夏に再発。12月12日、母ユウ没
明治 45 大正元年	1912	18歳	3月19日、かぞえ19歳で没

「少女の友」とは—?

月刊少女雑誌。実業之日本社刊。1908年(明治41)2月に創刊され、55年(昭和30)6月号で終刊。大正期までは他誌と大差ない内容であったが、1931年(昭和6)に内山基(もとい)が編集長となってから連載少女小説の質が急上昇し、吉屋信子(よしやのぶこ)『桜貝』、川端康成(かわばたやすなり)『美しい旅』、森田たま『石狩少女』などの秀作を生んだ。表紙、口絵、挿絵は中原淳一で、いわゆる叙情画に新しさをもたらした。講談社の『少女倶楽部(くらぶ)』(1923創刊)とともに長く少女雑誌の王座にあったが、第二次世界大戦ののち少女週刊誌の波に押され、48年の歴史を閉じた。

日本大百科全書(小学館)より

熊本県にある「菊陽町図書館」は、少女雑誌のコレクションで全国的に有名です。富士館の「原初枝回顧展」にもご協力をいただきました。



「少女の友」昭和13年1月号
『少女の友』中原淳一 昭和の付録お宝セット)より(実業之日本社、2009年刊)

富士小学校の歌碑

富士町古湯にある富士小学校の校庭に、昭和61年(1986)に建立された、初枝の歌碑があります。歌碑建立を呼びかけ、私費を投じたのは、地元の山中濶さん。原初枝の遠縁にあたり、初枝の短歌に感動したことから、独自に初枝研究を開始し、子どもの情操教育のために歌碑の建立を思い立ったのだそうです。



歌碑に刻まれた歌は、
雪降り炬燵に入りて今いちど おとぎ話をう母よよ
1カ月前に亡くなった母の死を悼む歌であり、初枝の日記の最後のページに記されていました。その日は、明治45年1月29日。この日から2カ月も経たないうちに、ふるさと古湯の桜も見ぬまま、初枝は亡くなりました。